

翻案 惜別の歌

(谷田貝常夫先生を悼みて捧げ奉る)

高田 友

島崎藤村「惜別の歌」は若菜集(明治三十年刊)に掲載せられし當初の題名は「高樓」なりしが、昭和十九年、軍需工場に學徒動員せられたりし中央大學學生・藤江英輔曲を付け、斯は名を改めたり。

藤村の元歌は、嫁ぐ姉に別れを惜む妹の嘆きを描きたれど、藤江はこの詩を、召集せられて軍需工場より戦地に赴く友人に捧げむとしたるによりて、第一聯の「悲しむなかれ我が姉よ」を「我が友よ」とは改變したるなり。一説には、同じく動員せられて工場にて昵懇となりし女子學生の去り行くを惜しみたりともいふ。さればこそ、人口に膾炙する「君くれなみの脣も」の件も元歌の詞を残したりとは察せらるれ。

藤江は全八聯のうち、第一、第二、第五、第七聯のみを歌詞と想定したりと傳へらるるが、全八聯をこの曲にて歌ひたりとも障りなかるべし。

本稿は、藤村の原作を本歌取りして今一つの詩と爲して、然後に英譯し、且つ題名を「訣別の宿世」と改めたるなり。拙劣なる作なれば、泉下の藤村の逆鱗に觸るるにあらざやと恐るれど、先日逝世せられたる谷田貝常夫先生の御魂に惜別の悲しみを込めて捧げ奉る所以なり。

冒頭に短歌ありて、その後、第一聯「遠き別れに」と始まる。藤村原文部分は行書體にて示し、我が翻案と分別せり。

インタネットにて聞かむと思召す方々には、「舟木一夫 惜別の歌」を推奨仕るが、庶幾くは、歌詞をなほ我が翻案にて各位歌ひ給はむことを。

訣別の宿世

(島崎藤村「高樓」を翻案)

わかれゆくひとををしむとこよひより

とほきゆめちにわれやまとはん (藤村)

(別れ行く人を惜しむと今宵より遠き夢路に我や惑はむ)

明日は別るるこの夕へ。

君は異國妾夢路。

夢に迷ひて彷徨へば、

また逢ふ日こそありもせめ。

What a pity you are going to leave me behind tomorrow,

Who is going to leave for a faraway country!

What have I to do but wander in my dream,

Where from now on I cannot help but wish to see you in vain?

I

妹

とほきわかれに たへかねて

このたかどのに のぼるかな

かなしむなかれ わがあねよ

たびのころもき とへのへ

堪ふるにづらぎ訣別の

宿世悲しき姉と妹

この高樓の欄干に

互みに濡らす袖と袖

Hardly able to put up with the sad separation,

We've come up the tower to its roof.

Don't feel unhappy, my sister!

Why not get prepared for your departure?

II

姉

わかれといへばむかしちり

このひとの女の つねなるを
ながるゝみづをながむれば
ゆめはづかしくきをみだかな

募る思ひを岩筵いしばせ

川行く水の流るがに

我が身一つの悔くならで

涙落つるぞ恥ちづかしき。

Among human beings since time immemorial,

Who could have avoided going through the wretch of parting?

Water is always flowing in the river, symbolizing the mutability of life.

Considering I am not the only unhappy one, I feel ashamed of my tears.

III

妹

したへるひとの もとにゆく

きみのうへこそ たのしけれ

ふゆやまにえて きみゆかば

なにかひかりの わがみぞち

戀ふる背の君嫁とつぐ君。

妾われを惜おしむにあらびやむ。

されど君なき明日あしたよりは

我が身は何たのを恃たのむへき。

You are destined to get married to your dearest man.

I know you are in fact weeping for joy instead of feeling sad for me.

But as for me, if you were gone over the winter mountain,

What could I count on as my ray of hope?

IV

姉

あゝはなどりの いろにつけ
ねにつけわれき おもへかし
けふわかれては いつかまた
あひみるまでの いのちかも

花咲く朝は妾思へ。
あま われしの

鳥鳴く宵は姉思へ。

涙に暮るる日も暮るる

よも今生の別れとは
いごとくやう

Remember me when you see flowers bloom.

Think of your sister when you hear birds sing.

Now that we are bidding farewell,

Would that I could live on until our reunion!

V

妹

きみがさやけき めのいろも
きみくれなるの くちびるも
きみがみどりの くろかみも
またいつかみん このわかれ

君清爽の眼差に
せいさう

妹の胸ぞ潰れなむ。
いづも

君が深紅の脣に
しんく

我が悲しきは愈まさる。
いや

深山花蔭隠沼の
みやまはなかげこもりぬ

瑞玉盃の結髪を、
みづたまうき ゆひがみ

今日別れなば年を経て

いつれの日にかまた仰ぐべき

Your attractive eyes refresh me.
Your scarlet lips console me in my sorrow.
Your raven locks remind me of a lake deep in the mountain.
All these, when can I see a second time?

VI

姉

なれがやさしきなぐさめも
なれがたのしきうたがえも
なれがこころのここのねも
またいつきかん このわかれ

汝が言の葉の優しなよ。
汝が歌聲の樂しきよ。
汝が内なる琴の音も、
夢まぼろしの聞き納め。

Your tender words make me feel at ease.
Your joyful song makes me comfortable.
There is sounding a harp in your heart.
All these, when can I hear once again?

VII

妹

きみのゆくべき やまかはは
おつるなみだに みえわかず
そでのしぐれの ふゆのひに
きみにおくらん はなもがな

越えたまひなむかの山川。

えしも見ざるは涙ゆる。
氷雨か露か袖朽す。

あも 饑はなむじの花なきに。

You are going over those mountains and rivers.

My tears prevent me from viewing them,

And they moisten my sleeves as if a winter rain were falling.

If only I could lay my hand on a flower to send to you!

VIII

姊

そでにおほくるうるはしき

ながかほばせきあげよかし

ながくれなるのかほばせに

ながるくなみだ われはぬぐはん

袖つつな裏うらみそ 顔かほを。

面おもてを上げて 妾われを見よ。

薔薇むらさきや 紛まがふ 頬ひ沾ひじる

涙なみだを 姊あねに 拭ぬぐはせよ。

Why cover with your sleeves that pretty face of yours?

Please raise and show it to me.

Tears are flowing down your rosy cheeks.

Let me wipe them with my hand.

(令和四年三月十五日受附)